

I 部

1. 識者からヒント

図(表)－1のとおり、二人の著書から引用して要約して見ます。ここでいう神とは今の宗教法人神社神道の神ではありません、記紀以来大和民族に営々と培われて来たアニミズム性の神です。人智を超えた何か偉大なる『もの・こと』を訓える・垂れる「サムシング・グレート」のことです。

(1) 「神話と日本人の心 (河合隼雄／岩波書店)」

——・・・神話の全体構造について、キリスト教文化圏は中心統合構造、吾が国は中空均衡構造である。別名、前者は凸部文化と称し、強力な中心に原理と力を持ち、それに依って全体が統合される。外部からの新しい思考・価値観に対して、至高至善の唯一絶対神の価値基準と対立的に対応する。後者は凹部文化と称し、中心に唯一絶対神の如くの原理は存在せず、全体均衡の共存を志向する。外部からの新しい思考・価値観に対しては一端中央で受け入れるが、周囲の中に調和的に融合して行く。融合と言っても元の性質が消滅するのでは無く姿を変えて共栄する志向である。・・・——

(2) 山本健太さん (神社本庁／神職) のお勧め

日本の「神」は「火と水ず」から取ったものである、とおっしゃられています。

(3) 「山鹿素行の中朝事実を読む (荒井桂著／致知出版社)」

山鹿素行の言葉を抽出します。皇統・神器章においては、「凡そ神は鏡なり」と喝破されています。つまり、「かがみ」の真ん中の「が」を抜き取ると「かみ」になると書いています。

次の神教章ではその鏡について、「前に立ったものだけをそのまま映し、まだ来ないものを前もって映そうともしないし、過ぎ去ってしまえば、もはやそのものを蓄えて映すよう事もしない。」

私説ですが、抜字の「が」は「我欲」の「我」であると考えています。鏡の物理的な本来機能に、人間の精神性を吹き込んで教訓を得る、——但し、吹き込む時に、人間の諸悪・苦しまの根源為る三毒の「貪（むさぼる）・瞋（怒る）・癡（愚か）」の我を抜いて——「中庸・中正」な心にすると言う事でしょうか。

図(表)－1

2. 新しい神=^{かみ}火と^か水^みの展開

その1；図(表)－1の3者から私は以下の様な展開が浮びました。直感、原初的には、図－2のとおり概念図柄です。火は男（凸部・陽・上昇垂直指向）に、水は女（凹部・陰・下降水平指向）に擬人化出来ます。地下から吹き上げたマグマ（陽）は凸部の中央部を目指し、天に向かって伸びる、発散する性質を有します。他方、天から恵まれた雨水（陰）は、低いところ（凹部）を目指し、溜まりつつ一つに凝縮して行く性質を有します。

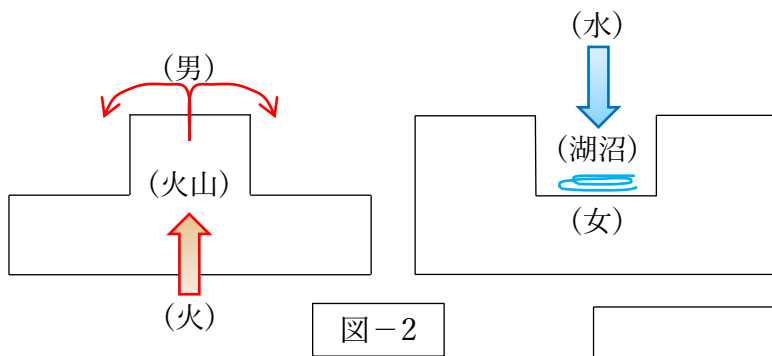


図-2

前者の火は陽に、後者の水は陰の動きに重ねています。これら陰陽二元説の二分法の見方から発展させて、さらには、人間を絡めてトライアド（三次元的）価値観で眺めて行くと日本人の心、あるいは国の統

治の有り様についても膨らんで行きます。図-2の凹凸のどちらか片方を上下反対に回転させて合せるとぴったりと図-3のとおり密着接合します。火と水が激しく衝突し、摩擦も起きます。生命誕生の合体現象を観想します。この合体では、余りにも露骨で人間臭いので、神（火と水）の世界では恥ずかしく隠しております。そこで、この凸の図柄を凹に横から移動・接着して合体させる、あるいは、凹に凸を下から合体させると、図-4のようになります。これを「山谷矩形図」と名付けます。

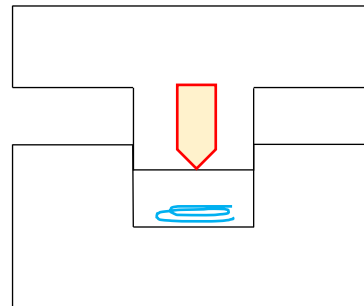


図-3

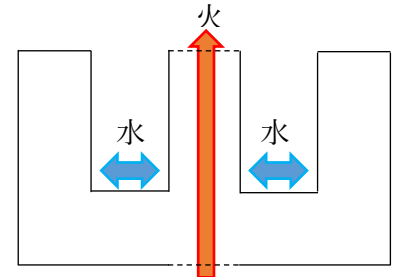


図-4

その2；これらに類似の物に図-5のとおりの中国では、火鍋子^{フョグオツ}と言う「しゃぶしゃぶ」の鍋があります、見事です。中央の凸部内部には下から燃焼炎（火）が立ち上ります。この構造（かたち）は火と水の真逆（相互相剋）関係——凸を裏から見れば凹であり、逆に、凹を裏から見れば凸である——にある性質を両性具有していること



図-5

になります。この鍋は、図-4と同相・相似の形であります。この鍋について、中央に煙突を付けた理由は大きく二つあって、今様に言えば、炎の出るガスコンロに上げたイメージで想像すると分り易いのです。煙突（凸部）の先端は開閉出来て、熱伝導を調節するようになっています。先端の蓋を開ければ炎が通り火力が増します。これは一面危険増に繋がることから、他面閉じて炎を遮断する、つまり、火傷防止の役目も果たします。しゃぶしゃぶと言う調理は、食材に入れる水と、その水を熱する火が大きな要素です。その二つが絡まってこそ食材を人間の健康・生命維持に供するように調理する事が出来るのです。凸の火と、凹の水とは対立・相克のものでありながら、合体させると、以って煮るという料理の巧みに変化し、以って至高の味を誕生させるのです。まさに伊邪那岐神、伊邪那美神の神徳の具象化そのものです。

しゃぶしゃぶはご存知のとおり、日本料理です。肉、魚介類、野菜を一緒に煮込みます。同様のものに大相撲界における独特の「ちゃんこ鍋料理」もあります。共に栄養のバランスの取れた和食です。共に、私が自称する「吾が日本は雑混受容民族」の為せる大技です。換言すれば、「ちゃんこ・しゃぶしゃぶ」は凹凸の陰陽二元素の性格を内包しつつ統合していると解釈出来ます。

その3；さらに想像を進めます。前記のとおり、日本の神(かみ)は「火(か)と水(み)ず」であるとの事から、この凸(火山=陽)と凹(清水=陰)の精神を統合している事になります。それ故に図-4の凸凹形状に、「火と水」の文字を上から降ろすように重ねて見ると、図-6のようになります。火と水の文字の形象自体がほぼ左右対称ですが、垂直指向(縦線)を入れているから、全体が左右対称となります。縦線は空間を左右(陰陽)に分割・分断します。本当に神様は素晴らしいのです。改めて、「火」は上昇指向・垂直指向・^{こうしん}攻撃的・昂進的な「陽」の性質を帯び、男性的、ジェンダー男性原理を有します。「水」は下降指向・水平指向・防衛的・沈静的に「陰」の性質を帯び、女性的、ジェンダー女性原理を有します。

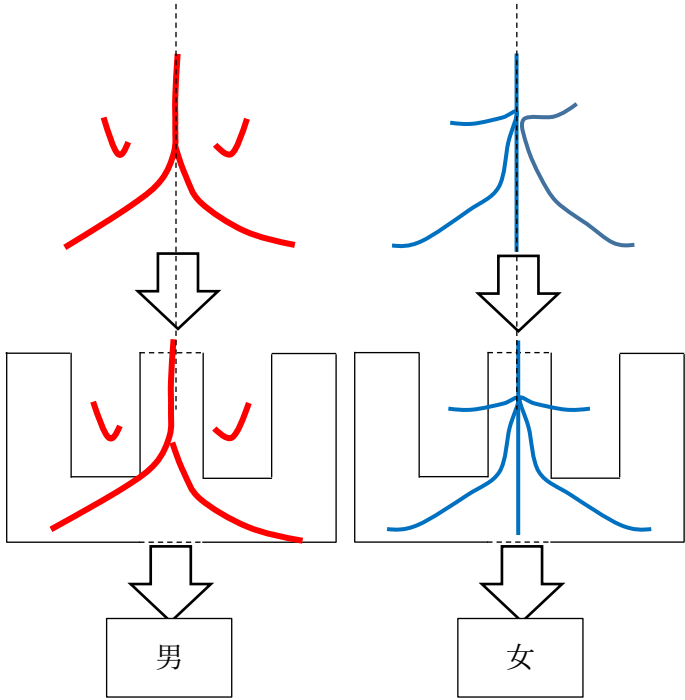


図-6

その4；図-6において、中央当りに横線を引きー水平指向を入れて、それより下を下半身、上を上半身に見立てたのが図-7です。図-6に新たな視点「ひねる・ねじる」を加味(神)したのです。すると、下半身に視線を向けると、左の「火」は開いているから、女陰の連想に繋がり、右の「水」は、垂直棒が立っており、男根の連想に繋がります。ここで、火は女陰(陰)に、水は男根(陽)に転換したのです。

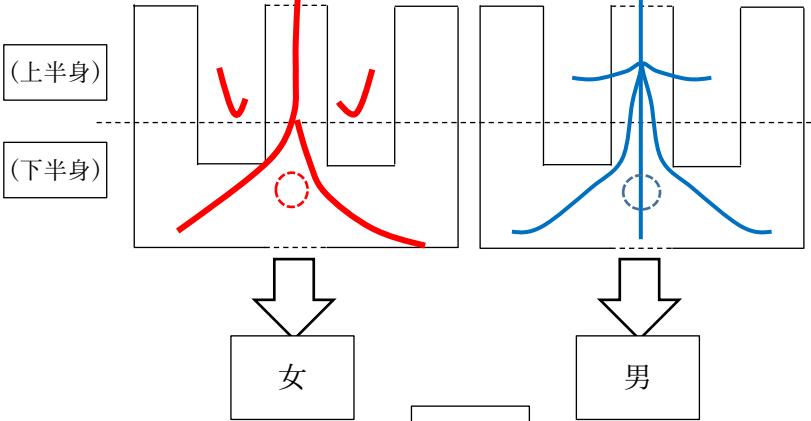


図-7

横線は空間を上下に分割・分断します。

その5；このような問題を考える時に、図(表)-8のような視点があるとより幅が広がると思います。問題視するのは、同形異質と異形同質の切り口です。

2ファクター		組合せ	実用性
形	質		
同	同	同形同質	
同	異	同形異質	同形異質
異	異	異形異質	
異	同	異形同質	異形同質
図(表)－8			

例えば、「異形同質」で謂えば、性においては、一見、男と女の姿形・身体的能力は異なるが、人間という点では同じです。例えば、「同形異質」で謂えば、見た目丸いものにおいては、りんごとサッカーボールは円形だが、一方は食用(有機物)、他方はスポーツ用(無機物)で異なります。これを踏まえて、前記、「火と水」に「凸と凹」とジェンダー「男と女」を持ち出して来た内容を見てみます。

図(表)－9、陰陽合体の「山谷矩形図」に表した縦軸
 で見た男と女を同形異質と見れば、縦（陽）に直行する
 横（陰）を以って切り口を変え、縦と横は対極と見
 る——同じ矩形（火・水）に対して、男女が入れ替わり
 ます、言い換えると、入れ替わって変質したが、同じ矩
 形（火・水）の範疇にあります。つまり、異形同質で
 す。これらは、矛盾ではないのです。陰陽二元の原点――

	前段(図-6)	後段(図-7)
	通常	刺激後
火	男（陽）	女（陰）
水	女（陰）	男（陽）
	同形異質	異形同質
図(表)－9		

――老子の「一が二を生じ」、易経の「易に太極あり、これ両儀を生ず」、一＝太極、二＝両儀――であり、万物・万象に内包「陰中陽有り、陽中陰有り」からすれば「帰一還元理法（一に帰り、元に戻る）」と相まって当然の揺れ・蠢きなのです。これが、神、すなわち火・水の本質ということです。別角度から見れば、同形同質、つまり、金太郎あめの「もの・こと」には、進歩発展がないということです。

その6；「六根 清 浄 の大 祓」からです。六根とは、仏教でいう「眼（目）・耳・鼻・舌（口）・身・意」を指します。

あまてらします すめおおかみ のたま
 天 照 皇 太 神 の 宣 は く
 ひと すなわ あめ した みたまもの
 人 は 則 ち 天 が 下 の 神 物 な り
 すべか しずま こと つかさど こころ
 須 ら く 静 る 謐 を 掌 る 心 は

すなわち かみ かみ もと あるじ
 則 神 と 明 と の 本 の 主 たり
 わがたましい いた なか こ ゆえ
 心 神 を 傷 ま し る こ と 莫 れ 是 の 故 に
 め もろもろ ふじよう み こころ もろもろ ふじよう み
 目 に 諸 の 不 浄 を 見 て 心 に 諸 の 不 浄 を 見 ず
 みみ もろもろ ふじよう き こころ もろもろ ふじよう き
 耳 に 諸 の 不 浄 を 聞 き て 心 に 諸 の 不 浄 を 聞 か ず
 はな もろもろ ふじよう か こころ もろもろ ふじよう か
 鼻 に 諸 の 不 浄 を 嗅 ぎ て 心 に 諸 の 不 浄 を 嗅 が ず
 くち もろもろ ふじよう いい こころ もろもろ ふじよう い
 口 に 諸 の 不 浄 を 言 て 心 に 諸 の 不 浄 を 言 わ ず
 み もろもろ ふじよう ふ こころ もろもろ ふじよう ふ
 身 に 諸 の 不 浄 を 触 れ て 心 に 諸 の 不 浄 を 触 れ ず
 こころ もろもろ ふじよう おもい こころ もろもろ ふじよう おも
 意 に 諸 の 不 浄 を 思 て 心 に 諸 の 不 浄 を 想 は ず

この祓詞の中で、明（日と月）を『かみ』と呼んでいます。日月の力は神というのです。日はその質において火と同価、月はその質において水と同価なのです。それは、中国古典『淮南子』にある――北極星を神霊化した最高神の太極（太一）は宇宙創成を担い、軽い澄んだ陽気を集積して『火』とし、その火の精が太陽となった。重く濁った陰気を集積して『水』とし、その水の精は『月』となった。――という説が原初にあります。日月は天空の両眼です。

3. 火と水－「五行」の相生・相克

陰陽五行説の細部には触れないが、概説は図－10・11のとおりです。特に「火と水」に着目します。

その1；図－10のとおり相対する関係の事です。五行配当は、水と火は、それぞれ北と南に配当し、木と金は、それぞれ東と西に配当しています。中央に土をおきます。陰陽二元にマージすると、水・金は陰、木・火は陽に配当します。土は天と対する地でもあり、それはすなわち陰でありつつ、他の4行を統括する役目を担います。

その2；図－11のとおり、相生・相克の関係にあることです。特徴は順次の循環ループを形成する相生と、立場が循環的に入れ替わる相克の対極的な変化を一つで表します。ここで着目するのが、火と水の関係です。原則（基本サイクル）においては、相克の『☉水剋火』（水は火より強い）関係のみですが、私は逆も真なりで、「☉!火は熱く水を蒸気に変える」つまり、

『火剋水（火は水より強い）』も有り、もある、と解することになっています。つまり、火と水はどちらから見ても、同等に相克力を有する関係にあるとしています。「互いに拮抗、優劣付け難し」、これこそ、「神＝火(か)・水(み(ず))」の成せる技です。



図－10

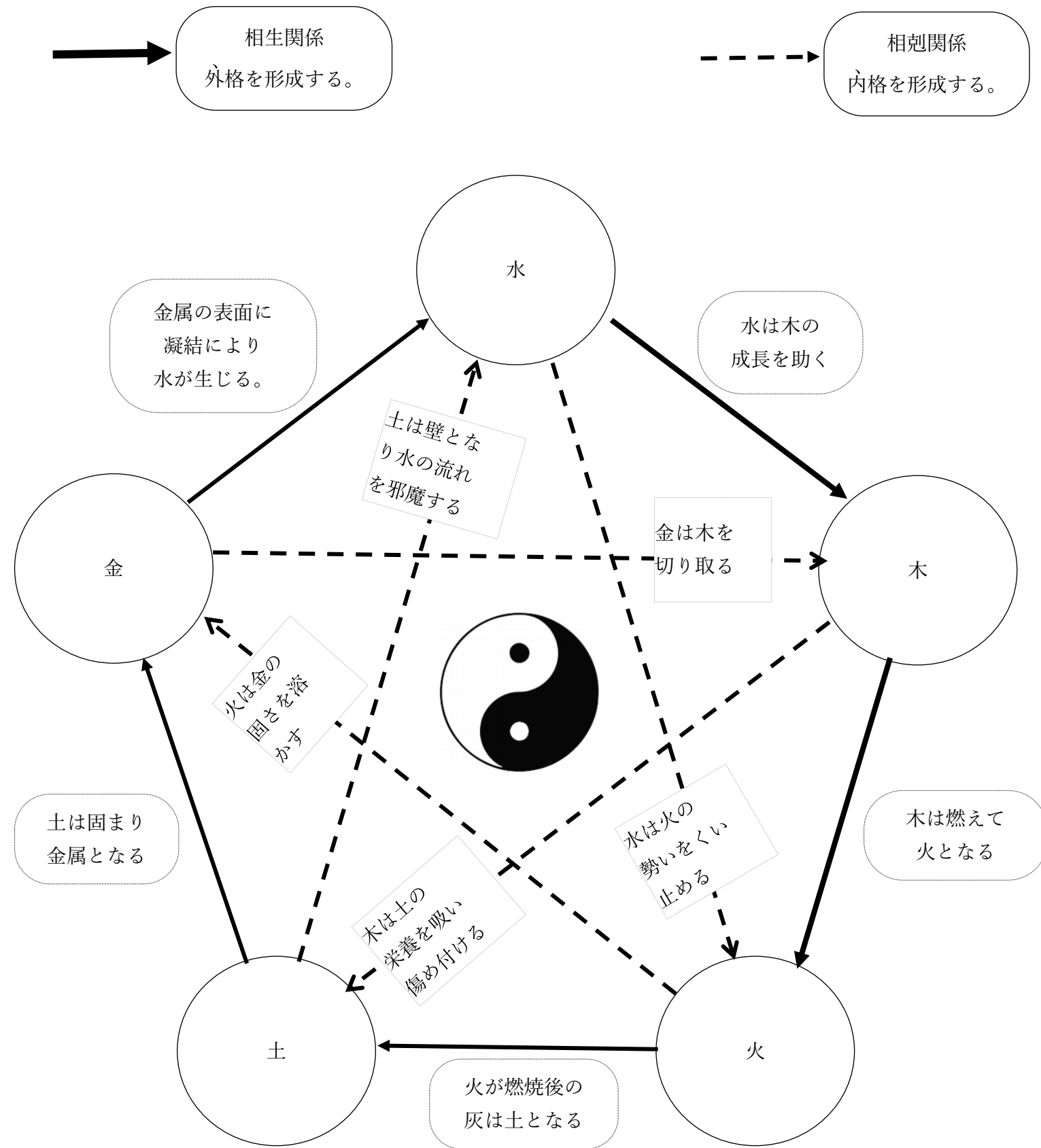
右記、陰陽五行説の基本サイクル
に反抗する私説

右相生の中にも相剋がある。

- ①!火の勢いが増せば、木は早く燃え尽きる
- ②!燃え出た灰（土）が固まると、火の勢いが衰える
- ③!金属(鉱石)を取り過ぎると土が減る
- ④!水に長く浸たされた金属は錆びる
- ⑤!木を増やせば吸い取られ水が減る

右相剋の中にも相生がある。

- Ⓐ!土は木の根が張れる状態を供する
- Ⓑ!水は岩石を砕いて土を作る
- Ⓒ!火は熱く水を蒸気に変える
- Ⓓ!金属は火の勢いを殺す壁となる
- Ⓔ!木は柔らかく、金属で加工され易い（木は金の力を引き出す）



陰陽五行説の基本サイクル
(公説)

相生関係（肯定性）とは、相手を
生み出して行く、永遠の生成。

五角形の外側の関係

- ①木生火
- ②火生土
- ③土生金
- ④金生水
- ⑤水生木



相剋関係（否定性）とは、相手を
打ち滅ぼして行く、無限の対立。

五角形の内側の関係

- Ⓐ木剋土
- Ⓑ土剋水
- Ⓒ水剋火
- Ⓓ火剋金
- Ⓔ金剋木

図-11

II 部

「火と水」の実力に着目します。

1. 火の力

その1；大森曹玄著書「参禅入門」の一説を取り上げます。「・・・火は時間に制約されず、いつでも熱いものである。何千年前の火も熱かったし、百年後の火も熱いだろう。もちろん今の火も熱い。また、アメリカの火も熱ければ、ソ連の火も熱い、日本の火も熱い、熱いということは場所によって制約されない。そしてさらに、火はあなたにとっても熱いし、私にとっても熱い、だれでもこれに触れると火傷する。そのようにいつでも、どこでも、だれにでも普遍的に当てはまるから、火は熱いということは疑うべからざる真理として認められる。・・・」

その2；火は「光（明かり）」と「熱」を放ちます。火のその素源力は、古来、照明、調理、暖房、合図の利活用に寄与し、また近代以降は動力源として人類に貢献して来ました。

その3；火は全てのー有機物および無機物を焼き尽くします、焼却・消失化します。

2. 水の力

（1）対生物ー植物、動物、人間の命に不可欠なものです。いわば全有機物の生命維持装置です。

- ・¹胎児は母親の体液（子宮内羊水）の中で育みます。（羊水は真水ではなく、0.25%程度の塩分を含む生理塩水。）これから特に水と女性の親和性が高いと見られています。
- ・²生まれた人間の60%～70%は水分です。（体に必要な栄養や酸素は、血液等の水分に乗って運ばれる。）
- ・³よって、水は生命の根源です。
- ・⁴水は汚れを落とします、体内排泄物を運びます。

なお、塩の効能について少し触れます。もちろん過剰摂取はだめですが、次の三つの働きがあります。『適塩』という言葉あります。

- ・¹細胞を正常に保持
- ・²神経や筋肉の働きを調整
- ・³食欲や味覚を正常化

（2）水の活動性ーいわば、対無機物順応装置です。

「水」は、物体の三態（固体、液体、気体）を自由に行き来しながら、どんな形の相手も縦横無尽順応する唯一つの物体です。

（3）裏まで回る垂直性

水には面白い性格（物理現象）があります。岩（障害物）に水（波）が当たった時、水はどのような動きをするのか。図ー1aのように直進する、すり抜けて行くというイメージ、ではありません。同図1bのように、岩の全周囲に、裏側まで隈なく回り込み、全ての面（正しくは点）における接線に垂直に当たるのです。別の言い方をすれば、全周囲の接線に垂直に当たる全ての点を求めて回り込む動きをするのです。これらを私は「水力回転サーチ」と称し、学ぶこと大です。何と素晴らしいことではないですか、人間もこうありたい。

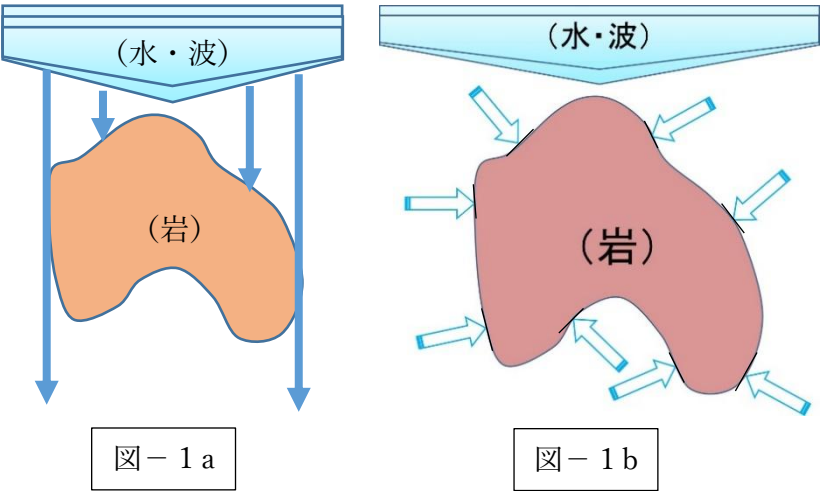
□1；一つ目は、垂直に当たるということは、正々堂々真正面に立つということです、後ろから鉄砲を打つような卑怯はしません。つまり、本人の居ない処で誹謗中傷の悪口・陰口を叩かないことです。

□2；二つ目は、裏側、全周囲に回り込むというのは、先入観で人の一面だけを見て全体を見た如く軽々しく人物評価はしないということです。能力を表に出さない人、「能ある鷹は爪を隠す」人

が沢山いる可能性があり、それを探し出そうとする対人関係の姿勢が大事です。

□3；流れの大筋を(上から下へ)見れば、背後を見抜く力、洞察力、活眼・明察力というものです。

企業・民間組織のトップは、コストパフォーマンス（費用対効果あるいは費用便益費・benefit by cost）、つまり投入コストとその効果に対する意識が高いので総じて図－1 bのような視点はある方が多いでしょう。しかし、地域コミュニティの様々な何とか会（ムレ・グル・衆）の『何とか長』（組織・グループ・集まりの代表者）は、そんな意識はサラサラ無く、縄張り意識が強く、本能そのまま行動の自我を通すことに汲々とする人が多いと見ています。



3. 火と水の合一性の真理は神

対照的な性質・様相を有する「火と水」のセットは、神＝火（か）水（みず）の心に通じますが、図（表）－2のとおりです。客観普遍的に妥当するもの、「いつでも、どこでも、だれにでも当て嵌まる」ということが真理だと言われるが、火と水は真理の象徴です。両極・対極の性質を一体化して『神』一つを作る、意義付けるのです。何と素晴らしい組み合わせです。抽象的であるが「原点回帰」の言葉が浮かびます。

火（陽）	水（陰）
太陽（日）・天空に照応します。 有機物・無機物の全てを消滅出来ます。 いわば「全否定」を想起・印象付けます。 全てのものを死 ころ す。 （し）	太陰（月）・大地に照応します。 有機物・無機物の全ての要求に応じます。 いわば「全肯定」を想起・印象付けます。 全てのものを生 う む。 （せい）
図(表)－2	

この宇宙銀河系で一番の偉大性を象徴するのは太陽であります。多くの国の宗教や文化において、太陽は神聖視され、偉大性を象徴する存在として扱われています。さて、現実の太陽光は物体・物質に当たった時影を作りますが、要因は？ 光の直進性——光は直線的に進む性質があり、つまり、光源（この場合は太陽）から出た光は、障害物に当たるまで直進します、前記図－1 aの性質相当です。不透明な物体: 不透明な物体は光を通さないため、物体の後ろには光が届きません。このため、物体の影の部分は光が遮られた状態になります。このように、太陽光が物体に当たることで影ができるのは、光の性質と物体の特性によるものです。ところが、陰の水は前記図－1 bの性質相当です。

ところが、太陽を神格化した大日如来は、影を作らないとしています。その教説は、仏教における象徴的な表現や教義の一部で、大日如来は、全宇宙の真理や悟りを象徴する表現であり、物質・物体でないから影は出来ようがないという考え方です。

《 関 連 資 料 》

1. 水の靈性

山中の古道歩きに入ると、目に山紫水明、耳に自然の諸々のザワツキが入ってきます、川流れと平行して歩くルートに來ると「水の働き」についてあれこれ浮かんで來ます。過去にあったいざこざをなかつたことにする、過ぎ去つたことを咎め^{とが}ないことにするという意で「水に流す」という古語があります、また、同様の意で神道の世界では禊ぎ・払いという儀式もあります。人生教訓に繋がる『水』の靈性について何点か挙げて見ます。

その1；水は必要性に応じて変幻自在

宗鏡録^{すぎょうろく}という仏教論書に次のようなある言葉があります。「牛飲水成乳、蛇飲水成毒（牛の飲む水は乳となり 蛇の飲む水は毒となる）」 水は相手の要求に応じて自在に変化します。

その2；「水は方円の器に随う」〔韓非子〕

四角い器に水を入れれば水も四角い形になり、丸い器に水を入れれば水も円形になります。転じて、人生においては、T P O環境——時（time）、所（place）、場合（occasion）や交友関係をよく見極めて、柔軟に対応していくことが大事ということを訓えます。大地が下降傾斜を増せば急流となり、上昇傾斜を増せば流れを緩めます。大きな岩（障壁）に衝突すればずるりと交わり、小さな石に当たれば乗り越えて流れます。

その3；「流れる水清く、留まる水は腐る」〔呂氏春秋〕

常に流動している水は、例えゆっくりでも決して腐ることはない、しかし、留まれば腐ってしまう。転じて、何かにと謙虚に行動している人には沈滞はないが、過去の成功体験に胡坐^{あぐら}をかいて驕り高ぶる人、組織内・社会的地位が上がるに従いとかく動かなくなるから因循姑息に留まり、老弊の害を蒙ることになります。

その4；「水清ければ魚棲まず」〔孔子家語〕

あまりにも水が清く澄んでいると、魚の餌になるプランクトンも繁殖しなく、住み着かなくなる。転じて、余り清廉・高潔過ぎると返って人に親しまれなくなります。この故事を送りたくなる人はめったにいない、逆で、心が濁り切って横柄な人が何と多いことか。

その5；「上善如水」

老子は「上善は水の如し」という、水は人間に飲用されることは佳いが、カバから飲まれることは嫌だとは言いません、水は相手を選ばず万物の成長を援けます、相手を選ぶなどという無用な争いはしません。人間は低い所を蔑^{さげす}んで嫌がりますが、低い所、より低い所を目掛けて進んで行きます、低い所に溜まります、貯まった水は人間・自然界の用水として供します。陽中陰有り・陰中陽有り、自由自在が佳いのです。

2. 黒田官兵衛(黒田如水；キリシタン大名)の教え「永五訓」

戦国時代、豊臣秀吉の知恵袋と云われた人です。

- 一 自ら活動して他を動かしむるは水なり
- 二 常に己の進路を求めて止まざるは水なり
- 三 障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり
- 四 自ら潔うして他の汚れを洗い清濁併せ容るるは水なり
- 五 洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり、
雪と変じ霰^{あられ}と化し凝^{ぎょう}しては玲瓏^{れいろう}たる鏡となりたえるも其^{その}性を失はざるは水なり

私は「永五訓」から学ぶこととして、浮かんだ四文字熟語等は次のとおりです。

一、については、「率先垂範」です、そして、「知行合一」です。

頭でっかちで知識偏重、他人を口先と指先だけで動かし、囲い込もうとする胡散臭い人がうようよしている世の中は要注意です。そのような輩には「面従腹背」であしらって信用しません、以後は不用意に近付きません。

そして、連なって浮かんで来た名言です。

□山本五十六――太平洋戦争当時の日本海軍最高指揮官――の名言「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」

□上杉鷹山(上杉治憲)――米沢藩9代藩主――の名言「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も、成らぬは人の、為さぬなりけり」

二、については「常在戦場」です。

三、については「難関突破、進取果敢」です、そして「フロンティア・スピリット、ルート・ファイティング、ブレイクスルー」です。

四、については、「対等互敬(恵)」です、そして、「玉石同匱^{どうき}」(匱^きとは大きな箱)です。

五、については、「自由自在」です、そして、「縦横無尽」「円転滑脱」です。

3. 水と「7・5・3」

子供の成長を願う節目のお祝いのことを指す「七五三」と水との関係であります。水分子 H_2O は、字義のとおりで二つの水素原子と一つの酸素原子が結び付いて構成しています。酸素原子を挟むように結合している二つの水素原子の結合角は 105 度(性格には 104.5 度くらい)であるが、その 105 の数字に着目します。 $105 = 1 \times 3 \times 5 \times 7$ ―― 1 から順に奇数を 4 個乗算の結果となります。なお、定規とコンパスの作図で正七角形を直接描くことは不可能とのことであります。なお、複数の円を重ねて描くと成立するようである、正七角形に近い七角形を疑似的に描く方法は色々あるようであります。

4. 聖水

水は、真水(河川水・淡水・清水)と潮水(海水・塩水)とその混合水(汽水)があります。潮水と真水は陰陽の関係にあります。「神道の神秘」(山蔭基央著)の本の中に「・・・川は淡水(真水)で男性象徴であり、海は海水で女性象徴である。その二つが交わる河口は、男女交合のシンボルである。・・・」と記載(前後のストーリーから記紀にあるのか。)されています。図-3 は、私が 1 回目四国へんろ(2015・H27 年)時に撮った高知県土佐清水地内での写真です、右側から川(真水)が流れ来て、左側の太平洋に刺さって行く状況がよく表れています。真水が海水に食い込んで海水(潮水)が

窪んでいます。河口に表れた真水（男、陽）と海水（女、陰）の交合合体の象徴美です。海側から押し寄せた波と川水との闘ぎあいが見事でした。結局は海水（陰）が真水（陽）を飲み込む様相でした。真水が比重のより大きい潮水の方へぐりぐりと刺さって行くのです、こういう自然の成せる技、素晴らしいものがあります。



図－ 3

5. 私が川を詠う

<短歌>

- ・ 水魂^{すいこん}は岩に当たって回り込み 全周訪ね真価を探す
- ・ 川流れ上より生まれ中^{なか}を継ぎ 下^{した}へ下^{しも}へと頭を垂れる
- ・ 静と動両義演出川流れ 清濁飲^{たいかい}んで大海目指す
- ・ 常々に俺もなりたや水模様 渦に飲まれて動きが取れぬ
- ・ 肅々^{さわ}と障りを気にせず進み行く 吾れ生き越しを水に浮かべん

<7・5 基調>

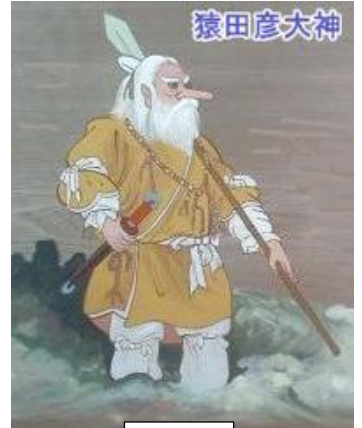
- 一、清水の一滴小川生み 中間を集め大河成り
水が動けば男の身 止まった水は女の身
- 二、あらゆる物の混濁を 合せ砕いて呑み込んで
川は流れて海に出る 祓^{とが}え戸神が咎を消す
- 三、邪魔ものの交わし下り旅 出会いを求め命懸け
河口で見合いペアリング 真水と潮がエクスタシ
- 四、自由自在の川流れ 自分で決めた道を行き
四角と丸と争わぬ 山紫水明^{おがわ}御川の力

III 部

神→「火・水」に日本人主食の米を結びます。

1. 齋庭稲穂の神勅

日本神話（古事記・日本書紀）他に依れば、瓊瓊杵尊（天照大御神の孫神）一行が高天原から吾が邦の国土に天下るに際し、天からの分かれ道・天と地を結ぶ十字路に立ち、上は高天原（天）を照らし、下は葦原中国（地・国土）を照らす『猿田彦大神；サルタヒコ』がいて、その先を道案内、先導啓行し、日向の高千穂まで無事届けて大役を果たしました。このことから『道分けの神・導きの神・結びの神』として今日まで崇敬されています。この際、瓊瓊杵尊は天照大御神から三大神勅を賜るが、その一つは「齋庭稲穂の神勅」であり、稲穂が授けられ、同神はその種を蒔き実らせました。猿田彦大神はこれら一連を統括した国津神（地祇）の統治者であり、様相は図－4とも云われています。



図－4

2. 米（＝こ・め）のこと

漢字「米」の由来は、図－5のように、1本の横線の周りを6本の短い縦線が取り囲むように書かれ、横向きになった稲の穂先を表現しているという。



図－5

『米』は「一粒万倍」と言われ、一粒蒔けば万倍にもなり、たった一粒が自分のみならず多くの人の主食となります。共存共栄や慈悲心のシンボルともいわれます。米は、1つの花の中に雄しべと雌しべの両方を持つ両性花であり、自家受粉によって実を結ぶことが出来ます、雄と雌の交配結合象徴としての米に“豊穰”を託します。その豊穰には子孫繁栄——子供を産み子々孫々命を繋いで行くことの願いを重ねます、極めて本能的な人間の性欲と重ねるのです。米に託す人の思いは簡単にいうと表は五穀豊穰、裏は男女の営みです。男女の営みを「ムスビ（結び）」といい、古事記では、『産巢日』、日本書紀では『産霊』と書きます。生命（＝霊性、靈魂）そのものの必須結合、そして繁殖への必然行為です。図(表)－6、その結果の子供を「むすこ・むすめ」と言います、この『むす』は「むすび（結び）」を意味し、末尾のこ・めは『こめ＝米』です。人間の「むすび（結び）」と米の「むすび（結び）」は表裏一体なのです。次表の言葉の末尾は「こ・め」となります。

むすこ	ひこ	むこ	おとこ
むすめ	ひめ	よめ	おとめ

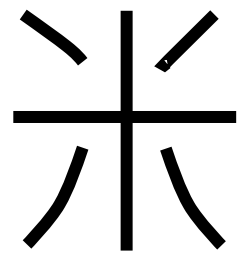
図(表)－6

3. 火と水から米

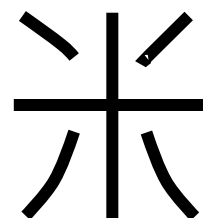
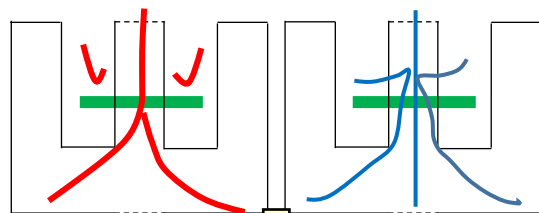
さて、図－7の米の文字の作りを見ていて、火と水の作りにとっても類似しているが、どこか足りない感じがします。そうです、横の線の有無です。稲の穂先を表す象形は横向き棒状です、すなわち、水平の大地（第三の要素、つまり土）です。米

（稲）の生育^{ステージ}レベルでみれば、開けた水平な大地だからこそ水を受け、陽（火）を受けます。図－7を発展させ、火と水に横棒を入れて合成すると図－8のとおり、米になります。大地と火と水との関連付けで米の完成です。火の上半分は太陽の日、下半分はマグマの熱です。水の上半分は降る雨、下半分は貯まる地下水です。

米の作りをさらに見ると、中央に交差点・交錯点、十字・クロスポイントがあります、第一象限から第四象限の中の線（はね）は四方に放散して行くもの・こと、あるいは集合して来るもの・ことを表し、中央結合点は離散・集結の起点を表します。まさに、冒頭既述した猿田彦大神の御神徳に繋がったのです。ここに、猿田彦大神、火、水、米が串刺し連関したのです。



図－7



図－8

《 参 考 》

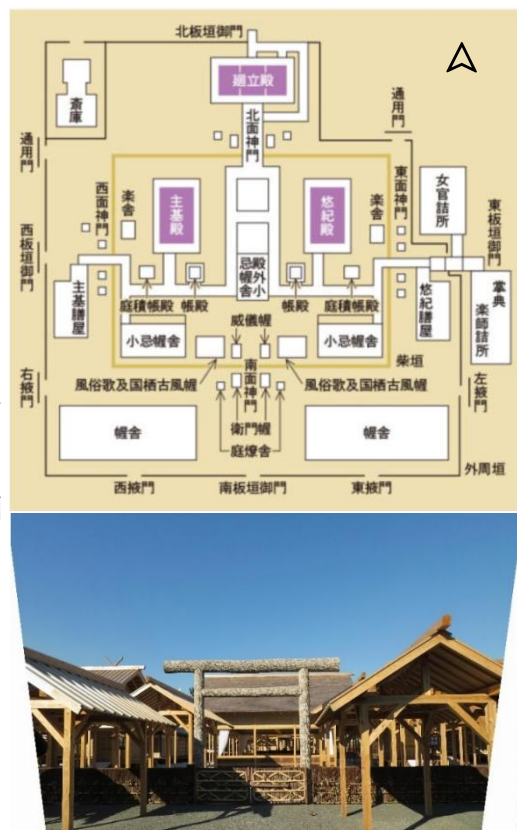
1. 新天皇即位と大嘗祭と米

新天皇が即位後、初めて行う新嘗祭は、国民の安寧や五穀豊穡を祈る儀式、その天皇一世一度（1回限り）の皇室行事をいい、大嘗祭と称します。この秘密儀式では呪物として米が重要な役割を果たし、献上される献上米産地（斎田）を、^{きぼく}亀トで占ない東西2か所を選定します。

令和今上天皇に関連すれば、2019(令和元)年5月13日(月)、皇居・宮中三殿の^{さいでんていん}神殿前で斎田^{さいでんていん}定点の儀が行われ、東日本の「悠^ゆ紀^き地方」に栃木県、西日本の「主^す基^き地方」に京都府が、それぞれ選ばれ、11月14日～15日の二日間で大嘗祭が行われました。

2019(令和元)年12月4日(水)、^{だいじょうきゅう}「大嘗宮」が一般参観、公開されていることから皇居に行って来ました、とにかく大勢の人人・・・、坂下門からたった1kmほどに4時間掛りました。図－9は祭場の見取り図、同下は正面写真です。

2. 私の呪物の一つ



図－9

その1；歩きの持続力を得るための呪いもの・呪物としては、このような稲粒（＝コメ）を背負った事例があります。図－10のとおり、正身 2014(平成 26)年 9 月 14 日(日)福島県桑折^{こおり}スタート～9 月 30 日(火)青森県油川ゴールの「旧羽州街道スルーハイク」の時です。図－11のように、スタート時は山形のブランド米の一つ「はえぬき」を、途中、秋田のブランド米の一つ「あきたこまち」を、最後に青森のブランド米の一つは「つがるロマン」を――現地で収穫作業をしていた農家から貰い、三県ブランド米の稲穂の三位一体を成したのです。吾が家の神棚・仏壇に神饌^{しんせん}・供物として、しばらくお供えしました。

その2；拘ったサルタヒコとの縁です。最終日 30 日（日）の早朝、宿を出て再スタート間もなく、道沿い 180mの所に図－10 左の「猿田彦大神（文化八年／1881 年）」の石碑と対面し、ゴール地点直前に同じく 180m手前道沿いに同図－右の「猿田彦大神（明治三十四年／1901 年）」の石碑に対面出来たのです。つまり、最終日の入口と出口にサルタヒコが表れたのです。余りにも偶然と言うか、出来過ぎた表れ方にびっくりしてしまった訳です。つまり、最終日の歩行開始時点と終了時点に、この「旧羽州街道」スルーハイク設定の段階であれほど拘った「猿田彦大神」が生きている人物として出現したかの、と錯覚に捉われるほどになりました。



図－10

“羽州路の歩きの旅をゴールする 神祇諸仏がテープを渡す”
 “羽州路の長旅終えてゴールした サルタミカミ 猿田彦大神とがっちり握手”



図－11



図－12

(end)